

令和4年度 府中市立白糸台小学校経営報告

令和5年3月31日

府中市立白糸台小学校

校長 寺田 慎吾

1 今年度の成果と課題

☆は重点項目、○は成果、△は課題、★は学校内調査、学校アンケートより

	取組目標	方 策
学 力 ア ッ プ	<p>☆基礎基本の定着及び発展的な学習の取組を進める。</p> <p>☆児童が、読むことを通じて自分の考えを豊かに表現する力を高める。</p> <p>☆学習規律・学習習慣の定着を徹底する。</p> <p>児童理解を深め共有する。</p>	<p>○算数科の習熟度別指導、ティームティーチングや個別指導等多様な形態を取り入れ、個に応じたきめ細かい指導を行った。学校経営支援予算を学力向上及び個別指導に置いた。(低学年・高学年算数科 T.T、中学年・高学年英語 T.T、学習支援による個別指導)</p> <p>○タブレットを日常使いさせ、活用場を設定し効果的に用いた。</p> <p>△基礎基本のさらなる定着及び個に応じた発展学習を充実させる必要がある。</p> <p>○児童の、読み取る力と表現する力を高める研究に取り組み、授業改善を進めた。全学級で校内研究に基づく授業研究を行い、実践を通して児童の主体的な学び、他者との交流による学びを深めさせた。</p> <p>★漢字定着率…1～3年 82%、4～6年…86%</p> <p>★計算定着率…1～3年 90%、4～6年…79%</p> <p>○家庭学習の習慣化は、前年度を上回った。習慣が身に付いている児童は、年間を通して実行できている。</p> <p>△基礎学力の維持・向上のための大きな要素である。保護者と連携し、家庭学習を一層定着させる。</p> <p>★児童は家庭学習の習慣が身に付いている…76.4%</p> <p>○「あいさつ」「規範意識」「学習規律」を中心に、全教員の共通理解を図りながら指導を継続し、改善した。(はい・立つ・です、さん・君をつけて呼ぶ)</p> <p>★児童は基本的な生活習慣が身に付いている…85.7%</p> <p>○学年会、生活指導夕会生活指導全体会等で児童の状況を共有し、組織的に指導した。</p>
人 間 力 ア ッ プ	<p>人権意識を高める。</p>	<p>○「いじめを絶対に許さない・させない」という強い指導を徹底し、いじめ対策委員会を中心として組織的に対応した。(日常の児童観察、いじめ調査等による未然防止・早期発見・早期解決)</p> <p>★学年末のいじめ調査未解決 0</p> <p>○ステージに応じた不登校対策を講じ、未然防止と適切な対処を行った。</p> <p>○児童の希望に応じてリモート学習を活用し、集団の一員であるという意識を育てるようにした。</p>

<p>道徳教育の充実を図る。</p> <p>自尊感情・自己肯定感を高める。</p> <p>体力向上、運動好きな児童を育成する。</p> <p>事故防止に努める。</p> <p>協働する教職員組織を確立する</p>	<p>道徳教育の充実を図る。</p> <p>自尊感情・自己肯定感を高める。</p> <p>体力向上、運動好きな児童を育成する。</p> <p>事故防止に努める。</p> <p>☆組織的な学校運営を行う。</p> <p>迅速かつ丁寧な対応を行う。</p> <p>OJTによる人材育成を図る。</p> <p>適正な予算執行を行う</p>	<p>○道徳授業のさらなる改善、充実を図るとともに、協力、生命尊重、思いやりの心を育成するため、教科としての道徳の特質をとらえた指導を行った。</p> <p>○「いまよりもっとよくなりたい」をもとに、個々や集団のよさを意図的に認め励ます学校経営を行った。</p> <p>○各学年学級、専科で自己肯定感を高める取組を継続した。</p> <p>★児童は楽しく学校生活を送っている…90.3%</p> <p>○昨年度の体力テスト結果を基に、コロナ禍に順応した計画で体力向上・体育指導の取組を実践した。</p> <p>○「子供を笑顔にするプロジェクト」ではオリンピックを招致し、運動への興味関心を喚起した。</p> <p>○体力向上と粘り強く運動する子の育成に向け、体育朝会、持久走週間、縄跳び週間を継続実施した。</p> <p>○毎月の安全指導日に交通事故防止の具体的な指導を繰り返し行い、交通事故を防止した。</p> <p>○食物アレルギー対応委員会を中心として事故防止体制を確立した。また事故発生 of シミュレーション訓練を実施し、教職員が迅速・的確な対処を身に付けた。</p> <p>★学校は児童の安全について配慮している…89.5%</p> <p>○主幹教諭が進んで学校目標達成のために企画立案し、学校運営を積極的に補佐した。</p> <p>○学年を組織の基本単位とし、学年主任の主導によって学習指導、生活指導を協働して行った。</p> <p>○特別支援教育コーディネーターを中心として、児童の支援体制を整えた。</p> <p>○報告・連絡・相談・記録を定着させ、事実に基づく教職員の共通理解をもって課題に対処した。</p> <p>△児童の怪我等についての報告が遅れることがあった。主幹教諭、主任教諭を指導し、徹底を図った。</p> <p>○副校長の監督下、主幹教諭が年間計画を立て実施した。指導力向上を目標として実践的な研修とした。</p> <p>△窓枠ストッパーなど児童の安全にかかわる個所が予想外に傷んでおり、修繕費用が予算額を大幅に超えた。経年劣化個所を見定め、予算編成に反映させる必要がある。</p>
--	--	---

<p>特色ある教育活動の一層の充実</p>	<p>サービスの厳正に努める</p> <p>クラブ活動の充実を図る</p> <p>特別活動としてのたてわり班活動の意義を確立させる</p> <p>☆小中連携・一貫教育の充実を図る</p>	<p>○サービス事故防止の研修を年間3回実施した。事例研究を通して、サービス事故はいつ誰にでも起こりうるものと捉えさせた。また、教職員相互が働きかけ、啓発しあうようにした。</p> <p>★サービス事故0</p> <p>○感染症予防を厳にしつつ、校外の発表会や試合に参加することができた。(和太鼓クラブ、タグラグビークラブ、白小合唱団) 児童に達成感・協力する喜びを実感させ、学校の代表としての意識を高めさせることができた。</p> <p>○感染症予防策を厳にしつつ、たてわり班活動を通年で毎月計画的に実施した。高学年児童の発意を生かして安全な活動を展開させることができた。</p> <p>○校舎1階廊下に「たてわり掲示板」を設置した。班員同士の連絡、他の範の活動状況を見て、児童の相互啓発を図った。</p> <p>○府中第十小学校、府中第二中学校と連携し、二中学区のコミュニティ・スクールを継続した。2学期は本校で授業公開、3学期は府中第十小学校の研究発表会に参加した。他校や異校種の教員交流は、二中学区での義務教育9年間で教員に意識付ける上で効果的であった。</p> <p>○小中一貫したあいさつ運動は、小中学生合同で健全育成に向けた活動として実施した。</p> <p>○府中けやきの森学園との通年交流を実施した。感染症の状況により両校で計画を見直し、直接交流、間接交流(オンラインを含む)など工夫して継続した。</p> <p>△白小合唱団と特別養護老人ホームとの交流は、高齢者の体調を考慮して実施を見送った。</p>
-----------------------	---	---

<p>保護者・地域と共に学校づくりを推進する</p>	<p>すすんで情報を発信する</p> <p>☆コミュニティ・スクールを構築する</p> <p>保護者、地域とともに教育活動を推進する</p>	<p>・学校・学年・学級・専科だより、学校公開、保護者会、学校ホームページを活用し、教育情報について発信した。保護者アンケート等は電子化して実施した。</p> <p>★学校は教育方針や活動内容、児童の様子を学校説明会や保護者会、学校公開や学校だよりなどで伝えている…96.2%</p> <p>△コロナ禍により、年1回として実施した。</p> <p>○地域コーディネーターの働きで、地域人財を学習に有効活用することができた。</p> <p>○PTAとの協力活動、地域ボランティアの学習支援、図書ボランティアの読み聞かせ（オンライン）等、感染症の状況を見つつ無理なく工夫して継続した。</p> <p>○インターネット環境を安全に使うためのセーフティ教室を行うとともに、保護者の啓発を図った。</p> <p>★教職員は児童の声に耳を傾け、親身になって受け止めようとしている…89.9%)</p> <p>★教職員は保護者との面談や問い合わせについて、誠実に対応している…96.6%</p>
----------------------------	--	--